

近衛ノ將校ヲ差配シテ事ニ就カシメ而シテ後
之ヲ陸軍卿ニ通報スヘシ

第十六條 登極冊立皇后皇太子等ノ大禮若クハ
國喪葬儀若クハ大臣ノ葬儀ニ勅ヲ以テ近衛兵
ノ儀仗ヲ賜フ等ノ事ヨリ外國ノ君主皇族若ク
ハ特別國使等參朝宴會ノ大儀アリテ近衛兵ヲ
遣ハシ途次ヲ警備シ前驅後殿以テ送迎ノ禮ヲ
修セシメ衛兵ヲ遣シ客館ヲ警護セシムル等ノ
事ニ至テハ陸軍卿當該主司ニ照會シ差等ヲ定
メ都督ニ牒告スルヲ以テ都督其差等ニ從ヒ近
衛兵ヲ差配シテ事ニ就カシム

十四年三月廿三日

近衛守衛隊服務概則ヲ定ム

陸軍省達

達乙第十三號

近衛守衛隊服務概則別冊之通被相定候條此旨相達
候事

明治十四年三月廿三日

陸軍卿大山 巖

近衛守衛隊

近衛守衛隊服務概則

新編守衛隊服務規則

例言

一此書ハ守衛隊服務ノ大綱ニシテ概テ平時ノ規則ニ係ル故ニ輦下戒嚴ノ日ニ當テハ條例第六條ニ因リ別ニ守備ノ方畧方面ノ部署ヲ定ムルヲ以テ各自ノ司令其令ヲ奉スヘシ

一本條中揭示スル伍長ノ諸務及隊伍ニ屬スル位置等ハ上等卒ニモ亦適用スヘシ

新編守衛隊服務規則

陸軍省

總則

第一條 守衛隊ハ守衛隊司令官ニ隸シ守衛一般ノ勤務ニ服行スヘシ

第二條 守衛隊ハ步兵半大隊騎砲工兵若干ヲ順次交番シ大内宮掖及ヒ宮中ニ屬スル殿廊府庫廟門等ノ守衛ニ充ツ而シテ平常ニ在テハ其外郭等宮内省ヨリ門部ヲ置ク處ノ諸門ノ出入ハ該門部門鑑ヲ檢スルカ故ニ是ニ配布スル處ノ哨兵ハ唯非違暴客等ノ常ナラサル所爲ヲ以テ出入スル者ヲ遮防スルノミ其服務ヲ分ツト左ノ如シ

其一 守衛隊司令官

其二 守衛首部

其三 儀仗守衛

其四 通常守衛

其五 巡察

其六 分遣哨兵

其七 扣兵

其八 號砲手

其九 傳令騎兵

其十 使役

第三條 守衛隊司令官ハ近衛歩兵大隊長停年ノ順序ニ從テ一列ノ當直順次ヲ立テ日々一人宛正午十二時ヲ以テ交代上番シ以テ次日正午十二時ニ至リ夜間ハ即宿直シ寸時モ宮門ヲ出ルヲ許サス

第四條 司令官ハ侍中武官ヨリ練兵等ノ宣傳スル

コアレハ謹テ奉承シ上更兵ヲ以テ之ニ從事セシムルヲアルヘシ

第五條 守衛首部ハ守衛隊中最大ノ部ニシテ官門内樞要ノ地ニ置キ巡察及ヒ臨時ノ守衛ニ充ツ而シテ本日上更スル中隊長之ヲ指揮ス

第六條 儀仗守衛ハ正門ニ置キ中隊長之ヲ指揮シ小隊長之ニ屬ス

第七條 通常守衛ハ殿廊府庫廟門及ヒ園庭厩園其他出入諸口ノ守衛ニシテ之ニ要スル兵員ノ多寡ニ依リ士官下士之ヲ令ス

第八條 巡察ハ守衛首部ニ課シ各步哨ノ懈惰ヲ戒

メ他ノ不虞ヲ監視セシム其巡察ハ兵卒二名乃至四名士官或ハ下士一名之ヲ導キ時ヲ以テ宮門内ヲ巡行ス又時機之ヲ要スレハ宮門外ヲ巡行セシム

第九條 分遣哨兵ハ守衛首部ニ隸ス

第十條 扣兵ハ非常ノ時ニ方リ速カニ守衛隊ニ應援スヘキモノニシテ次日守衛ノ服務ニ當ル將校下士卒ヲ以テ之ニ充ツ故ニ其勤務ニ當ル將校退營後ハ在宿シ下士卒ハ其營ヲ出タスヲ許サス
第十一條 號砲手ハ非常及ヒ近火ノ號砲ヲ打放セシムル爲メ砲兵隊ノ兵卒四名伍長一名トシ軍曹一名之ヲ卒ヒ守衛首部ニ隸ス

第十二條 傳令騎兵ハ近火ノ火元見其他火速傳令

ノ爲メ騎兵若干名ヲ置キ守衛首部ニ隸ス

第十三條 使役ハ武器又ハ糧食被服等ノ運搬其他司令官及ヒ士官ノ直舍等ノ雜役ニ供スルモノトス

第十四條 儀仗守衛及ヒ通常守衛等ノ步哨ハ二十四時間各員互ニ六時乃至八時間ノ勤務ニ服セシムルヲ例トス

第十五條 各哨兵ノ輕重ニ從ヒ半隊小隊半小隊或ハ分隊ヲ以テ之ニ充テ順次ニ番號ヲ付スヘシ

守衛隊ノ編成及ヒ武裝

第十六條 守衛隊上更スヘキ稍前ニ報スル呼集ノ
號音ニ應シ其中隊ノ軍曹及ヒ伍長ハ室内ニ於テ
兵卒ノ手銃彈藥藥盆中ノ物品ハ勿論被服背囊ノ
裝法ニ至ルマテ細密ニ之ヲ檢查スヘシ
第十七條 上更ノ若干時前其屯營内ニ於テ當直勤
務ノ順序ニ整列シ週番士官武裝檢查ノ後々首部
司令トナルヘキ者引卒シテ整列場ニ赴クヘシ
第十八條 守衛隊ハ正裝スルヲ定例トス然レモ別
ニ命アレハ此限ニ在ラス

守衛隊整列式及命令ノ布達

第十九條 當直ノ兵隊宮門ヲ通過スルトキハ敬禮

ヲ行フ而シテ整列ノ場地ニ至リ直々ニ排列シテ
横隊トナリ以テ司令官ノ命ヲ待ツ
第二十條 當直ノ兵隊上更スレハ司令官ハ整列場
ニ於テ之ヲ點檢受領シ而シテ分列行進ノ後々之
ヲ分配シテ各哨兵ト交代セシム
第二十一條 上更兵分列行進ハ後々各哨處ニ赴ク
ニハ隊伍ヲ齊整シ靜肅ニ行進スヘシ
第二十二條 司令官命令ヲ布達スヘキトキハ分列
式畢テ後々首部司令ヲシテ喇叭手ヲシテ命令ノ
譜ヲ吹カシメ各哨兵ノ高級ノ下士一名ヲ集合セ
シム是ニ於テ司令ハ命令ヲ布達シ或ハ之カ辨解
ヲナスヘシ

隊伍及ヒ諸官ノ位置

第二十三條 哨兵ノ隊伍其兵員九名以下ナレハ之ヲ一列トナシ十名以上ナレハ二列トナシ之レニ右翼ヨリ左翼ニ番號ヲ付シ此番號ノ順序ヲ逐フテ勤務ヲ命スルモノトス

第二十四條 哨兵司令將校ナルトキハ拔劍シテ其隊ノ中央前二步ノ地ニ位シ其他ノ將校ハ押伍列ニ加ル第一ノ軍曹ハ第一列ノ右翼ニ第二ノ軍曹ハ左翼ニ其他ノ軍曹伍長ハ皆押伍列ニ在ルヘシ

第二十五條 軍曹哨兵ノ司令タルトキハ其隊ノ右翼ニ在ルコト猶前條ノ如シ而シテ第一ノ伍長ハ

哨兵交代法

左翼ニ第二ノ伍長ハ押伍列ニ在ルヘシ又伍長司令タルトキハ隊ノ右翼ニ立ツ猶他ニ伍長アレハ之ヲ左翼ニ列ス喇叭手ハ哨兵司令將校下士タルニ論ナク第一列ノ右方二步ノ地ニ在ルヘシ

第二十六條 下番哨兵ハ交代ノ時限前ニ至レハ負囊執銃シ哨舍ノ前ニ於テ其左方上番哨兵ノ爲メニ餘地ヲ置テ整列ス若シ其場所狹小ニシテ一側ニ兩哨兵並列シ難キトキハ上番哨兵ヲ哨舍ノ方ニ容レ下番哨兵ハ哨舍ニ對向ス而シテ上番哨兵凡ソ五十步ノ地ニ來レハ下番哨兵整頓シテ肩銃

ヲ爲シ喇叭手ハ行進譜ヲ奏ス上番哨兵モ亦下番
哨兵ヲ距ル凡ソ五十歩ノ地ニ至レハ肩銃ヲナシ
喇叭手ハ行進譜ヲ奏シ下番哨兵ノ左方若クハ前
ニ至レハ停止正面シテ整頓シ然ル後々兩哨兵ト
モニ建銃ヲナス

第二十七條 建銃ヲ爲シタル後々兩哨兵ノ司令ハ
互ニ進テ敬禮ヲ行フ其法將校ナレハ劍ヲ以テシ
下士ナレハ肩銃ヲ爲ス然ル後上番哨兵ノ司令ニ
職務ニ關スル百事ヲ傳告シ又軍曹モ同シク上番
哨兵ノ軍曹ニ職務上ノ諸件ヲ傳告スヘシ

第二十八條 上番哨兵ノ司令ハ哨舍係伍長ヲシテ
哨舍並ニ舍内備付ノ諸物品ヲ受領セシメ又歩哨

掛ヲシテ兵卒ニ番號ヲ付シ歩哨ノ交代ヲ爲サシ
ム此歩哨掛ハ下番哨兵ノ同職ノ者ヨリ其職務上
ノ申繼等ヲ綿密ニ承知シ置クヘシ

第二十九條 歩哨ノ交代終レハ兩哨兵トモニ肩銃
ヲ爲シ下番哨兵ハ若干歩前進シテ停止ス兩隊ノ
喇叭手ハ行進譜ヲ奏シ下番哨兵停止スレハ從テ
吹奏ヲ止ム此ニ於テ下番哨兵ハ銃劍ヲ脱シ更ニ
肩銃シ側面ヲ爲シ隊伍ヲ整正シ靜肅ニ退去スヘ
シ

第三十條 下番哨兵既ニ退去スレハ上番哨兵ノ司
令ハ兵卒ノ武器ヲ檢査シ終レハ右轉回ヲ爲サシ
メ捧銃ヲ命シテ解列セシム兵卒哨舍ニ入レハ其

番號ノ順序ニ從テ銃架ニ其銃ヲ置クヘシ

第三十一條 下番哨兵交代終レハ整列場ニ集合シ
下番ノ首部司令之ヲ引卒シ整列シテ販營スヘシ

守衛隊司令官ノ職務

第三十二條 司令官ノ職務ハ此書中ニ記載スル條
款ハ悉ク其權義ニ關スルヲ以テ殊更ニ揭示スル
ヲ要セスト雖トモ今爰ニ其要件ヲ掲載ス

第三十三條 司令官ハ守衛隊一般ノ事ヲ總理シ豫
メ畫定セル守備ノ方法哨兵ノ部署步哨ノ布置ニ
從ヒ守衛線内ヲ警備スルヲ專務トス而シテ其部
署ヲ變スルニハ必ス都督ニ具申シ決テ取ルヲ定

例トス然レトモ其配兵及ヒ步哨交代ノ事ニ就キ
臨機宜シキヲ制スヘキノ事アレハ事宜ニ從テ裁
定シ後チ都督ニ上申スルヲ得ヘシ

第三十四條 晝間ハ諸門并ニ各哨所ヲ巡視シ人員
ヲ檢査シ勤惰ヲ觀察シ其所ニ備フル守則及ヒ諸
帖簿ヲ點檢スヘシ又夜間モ時ヲ以テ巡視スルコ
ト晝間ノ法ニ準ス

第三十五條 非常ハ勿論近火ノ節ハ號砲發火ノ令
ヲ下スヘシ近火境界分明ナルトキハ騎兵ヲシ
テ火元ヲ實見セシメ又境界外ト雖トモ風勢ニ因
リ發火ノ令ヲ下スコトアルヘシ且非常ノ報アレ
ハ士官又ハ下士ヲ以テ速カニ斥候ヲ出シ事實ヲ

探偵スヘシ

第三十六條 守衛隊一般ノ布達命令等ハ首部司令ニ達シ同官ヲシテ各哨所ニ布達セシム而シテ能ク諸事ヲ遵奉スルヤ否ヲ監視シ且火藥庫ノ鍵ヲ保守スヘシ

第三十七條 毎朝首部司令ヨリ呈スル報告表ハ檢査調印ノ上都督ニ申報スヘシ

首部司令ノ職務

第三十八條 首部司令ハ各哨所分遣哨兵號砲手並ニ傳令騎兵ノ勤務ニ關シ司令官ノ命ヲ奉シ定則ヲ遵守シ一般ノ布達並ニ命令ヲ司トル

第三十九條 各哨所並ニ步哨ノ勤務ヲ巡視シ又時

々巡察ヲ發スヘシ

第四十條 非常ノ際彈藥ヲ要スルトキハ司令官ニ申告シテ事ニ從フヘシ

第四十一條 首部ノ營舎ニハ常ニ左ノ箇所ヲ揭示シ置クヘシ

其一 近火經線

其二 宮中消防夫ノ屯所

第四十二條 首部ハ宮中一般ノ守護ニ關スルヲ以テ司令タルモノ能ク其本旨ヲ体シ警衛セサル可カラス故ニ事アツテ某部ノ哨兵力能ハスシテ助力ヲ請フトキハ其請ニ應シ速カニ部下ノ一部ヲ派出シ應援ヲ爲サシム若シ犯人ヲ逮捕セシトキ

ハ司令官ノ命ヲ受ケ犯人ヲ護送スルコトアルヘシ但シ何等ノ事故ニ際會スルモ司令官ノ命ニ因ラスンテ一時ニ部下總員ノ半數以上ヲ派出スヘカラス

第四十三條 近火經線内ニ火災アルトキハ首部ハ先ツ司令官ニ報シ速カニ兵卒ヲシテ執銃整列セシメ各哨所及ヒ消防夫ノ屯所ニ通報シ而シテ騎兵ヲ差遣シ火勢ヲ實見セシメ速カニ司令官ニ告知スヘシ又禁内ニ在テハ時機ニ依リ司令官ノ命ニ從ヒ其隊ノ一部分ヲ以テ消防ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第四十四條 非常ノトキハ司令官ノ指揮ニ依リ首

部司令ハ喇叭手ヲシテ非常ノ號音ヲ吹キシメ各哨兵ヲシテ速カニ其哨所ニ整列セシメ且其部下ノ兵ヲシテ執銃整列セシム

第四十五條 守衛隊中犯罪者アレハ首部司令ハ司令官ニ其罪狀ヲ具申シ其者ヲシテ販營セシムルカ或ハ哨舍ニ於テ本務ノ外雜役ヲ命シ以テ之ヲ懲戒セシム但シ哨所ニ於テ役スルモ歩哨ヲ命シテ懲治スルヲ許サス

第四十六條 首部司令ハ曹長并ニ給養掛軍曹ヲシテ各哨所ノ諸物品ノ配與及ヒ其破損紛失ノ修理引替食物ノ分配其他諸達往復等守衛隊一般ノ庶務ヲ掌ラシメ且其監視ヲナスヘシ

第四十七條 毎朝各哨所ヨリ報告スル所ノ表面ハ曹長ヲシテ一表ニ製セシメ調印ノ上司令官ニ呈スヘシ

第四十八條 毎土曜日午後ニ於テ大掃除ヲ爲シタル後チ各哨舎ノ清潔検査ヲ爲スヘシ又分遣哨兵ニ在テハ其司令ヲシテ之ヲ行ハシムルモ妨ケナシ

第四十九條 内庭諸門ノ鍵ヲ保守シ其開閉ノ達アル毎ニ之ヲ開閉シ失誤ナキ様注意スヘシ

哨兵司令ノ職務

第五十條 哨兵司令ノ職務ハ其哨舎ニ揭示セル守

則及ヒ日ヤノ命令ニ注意シ之ヲ軍曹及伍長ニ教示シ嚴密ニ警衛ヲ行ハシムヘシ

第五十一條 哨兵司令ハ其隊ヲ哨舎ニ屯在セシメタル後歩哨掛ヲ引卒シテ各歩哨ヲ巡視シ又歩哨ニ其守則ヲ試問シ若シ違フモノアレハ直チニ之ヲ改正スヘシ但軍曹司令タル哨兵ニシテ伍長只一名ノミ屬スルトキハ巡視ノトキ伍長隨行スルコトナシ

第五十二條 哨兵司令ハ瞬時モ哨舎ヲ離ル、ヲ許サス且常ニ服裝ヲ正シ軍刀或ハ銃劍ヲ佩ヒ其他ノ下士卒ハ藥盆及ヒ服裝ヲ脱スルヲ許サス

第五十三條 哨兵司令ハ暫時モ部下兵卒ヲシテ哨

舍ヲ離レシム可カラス嚴ニ其任務ヲ竭サシメ亦
屢々點呼ヲナシ間々武装呼集ヲ爲シ以テ兵卒ヲ
シテ迅速ニ執銃整列スルニ慣レシムヘシ月正朝
會天長節其他拜賀祭典節會等ノ常儀官中出入繁
劇ノトキハ殊ニ注意セサル可カラス

第五十四條 哨兵司令ハ夜間ハ殊ニ注意ヲ加ヘ屢
々歩哨ヲ巡視スヘシ

第五十五條 非常或ハ近火ノ警報アルトキハ速カ
ニ首^部部司令ニ報告シ其指揮ヲ^候候ツテ倒トス然レ
トモ火急ノ際ハ報告シテ直ニ事ニ從フヲ得ヘ
シ

第五十六條 歩哨或ハ門部ヨリ非違暴客等アルヲ

報スレハ哨兵司令ハ先ツ首部司令ニ通報シ下士
一名ト兵卒若干名トヲ遣シ其騷擾ヲ鎮靜シ或ハ
逮捕セシム

第五十七條 日朝及ヒ日夕點呼ノトキ其場ニ立會
ヒ又兵卒ノ武器被服其他ノ物品ヲ檢査スヘシ

曹長ノ勤務

第五十八條 曹長ハ首部司令ノ命ヲ奉シ守衛隊一
般ノ庶務ヲ管掌ス

第五十九條 一般ノ布達及ヒ諸命令アルトキハ首
部司令ノ命ニ從ヒ各哨兵號砲手并ニ傳令騎兵等
ニ布達シ其他文書ノ往復諸帖簿ノ記注ヲ掌ルヘ

近衛守衛隊職務規則

第四軍團省

シ
第六十條 日々上更スレハ守衛隊ノ人員表ヲ製シ
且毎朝各哨所ヨリ報告スル處ノ表面ヲ一表ニ製
シ首部司令ノ調印ヲ受ケ其時々司令官ニ呈スヘ
シ

軍曹ノ勤務

第六十一條 將校ノ司令タル哨兵ノ軍曹ハ其將校
ニ隸屬シ伍長及ヒ兵卒守衛ノ諸務ヲ嚴ニ行ハシ
ムルヲ要ス故ニ百般ノ事ニ注意シ又司令哨舍ニ
アラサルトキハ特ニ諸事ニ注意スヘシ

第六十二條 日朝及ヒ日夕點呼ノトキハ司令ノ立

會ニテ人員ヲ檢査シ終テ自カラ首部司令ノ處ニ
至リ其次第ヲ口演申告スヘシ

第六十三條 毎朝報告表ヲ製シ司令ノ調印ヲ受ケ
日朝點呼報告ノトキ首部司令ニ呈スヘシ且此時
巡察ノ帖簿ヲ進呈シ首部司令ノ檢印ヲ受クヘシ

第六十四條 非常或ハ近火ノ警報アルトキ若シ司
令哨舍ニアラサルトキハ速カニ其司令及ヒ首部
司令ニ報告シ其指揮ヲ俟ツヘシ

第六十五條 諸門諸口ノ開閉且步哨交代等ニ注意
シ時々守則ヲ試問スヘシ

第六十六條 兵卒ノ勤惰及ヒ哨舍内外ノ清潔ヲ監
視シ又交代ノトキニ至テハ守則ヲ申繼及ヒ物品

近衛守衛隊職務規則

十二

第四軍團省

ノ引渡等ニ注意スヘシ

給養掛軍曹ノ勤務

第六十七條 給養掛軍曹ハ首部ニ備付ノ諸物品ニ破損紛失ナキヤ否ニ注意シ且司令官直舎及ヒ其他哨所ヨリ諸物品ノ請求及ヒ其破損紛失等ノ修理引換ヲ請フトキハ所定ノ傳票ニ記上シ首部司令ノ調印ヲ受ケ近衛局ニ申告シテ請求及ヒ修理引換ヲ爲スヘシ首部ニ備付ノ物品ニ於ケルモ亦同シ

伍長ノ勤務

第六十八條 數名ノ伍長アル哨兵ニ在テハ其最モ故參ノ者哨舍掛ヲ勤メ下條ニ掲クル處ノ勤務ニ服スヘシ其他ノ伍長ハ更番ニ步哨ノ交代ヲ任ス唯伍長一名ノミ付屬セル哨兵ニ在テハ其伍長諸務ヲ兼勤スルモノトス

第六十九條 伍長ノ司令タル哨兵ニ在テハ故參ノ兵卒ヲシテ步哨ノ交代ヲ掌ラシムルヲ得ヘシ第七十條 日朝ニハ兵卒ヲシテ哨舍並ニ其近傍ヲ掃除セシメ且毎土曜日ノ午後ハ大掃除ヲナサシムルヲ要ス

哨舍掛ノ勤務

第七十一條 哨舍掛ノ主務ハ哨舍ノ清潔ニ注意シ
舍内備付ノ諸器具即机腰掛定則ノ揭示板其他諸
雜品ノ保存ヲ掌ルヘシ故ニ交代ノトキ下番哨兵
ノ哨舍掛ト立會ニテ舍内ニ掲クル目錄ニ照シテ
諸器具及ヒ門戸窓牖ニ至ルマテ盡ク破損缺失ナ
キヤ否ヲ檢視シ而シテ哨兵司令ニ其損缺ノ有無
ヲ申告スヘシ若シ破損或ハ缺失ノ品アルトキ下
番哨兵司令ハ詳細ニ其次第ヲ取糾シ首部司令ニ
申告シ修理又ハ引換ヲ乞フヘシ其破損缺失不注
意ヨリ生スルトキハ其本人ヲシテ自償セシム若
シ其本人分明ナラサルトキハ哨舍内ノ惣員ヲシ
テ之ヲ補償セシムヘシ且此哨舍掛其損缺有ルヲ

哨兵司令ニ告ケサルトキハ已レ其責ヲ受ケ或ハ
之ヲ償フヘシ

第七十二條 此哨舍掛ハ下番哨兵退去シタル後チ
兵卒ニ傳票ヲ渡シ之ヲシテ給養掛軍曹ノ處ニ至
リ薪炭燈油等ヲ請取ヲシメ其他食物ノ受領分配
等ヲ掌トルヘシ但シ其使役ハ最後ニ步哨ニ當ル
者ヲ始メトシ更番ニ之ヲ命スヘシ

步哨掛ノ勤務

第七十三條 步哨掛ハ步哨ノ武器被服其他ノ物品
ヲ齊整セルヤ否ヲ監視シ嚴ニ守衛ノ守則ヲ行ハ
シメ又交代ノ步哨ニ其守則ヲ辨解セシムルヲ任

トス其他哨廠等ノ清潔ナルヤ否ヲモ監視スヘシ
第七十四條 步哨掛哨所ニ到着スレハ哨兵司令ノ
命ヲ受ケ步哨ノ數ト人員ノ多寡ニ依リ一所ニ三
名或ハ四名ニ班ヲ必ス同一ノ兵卒ヲ以テ同所ノ
勤務ヲナサシムヘシ

第七十五條 步哨ノ勤務ヲ班ナタルノ後其交代ヲ
ナス其法步哨掛ハ各班ノ右翼ヨリ步哨ニ當ルヘ
キ人員ヲ呼出シ武器被服等ノ検査ヲ爲シ終レハ
復伍セスシテ右向ヲ爲サシメ躬ヲ先頭ノ左ニツ
キ下番哨兵ノ步哨掛又其左ニツキ正シク行進シ
テ交代ニ赴ク但シ四名以上ナルトキハ検査ノ後
之ヲ二列トナスヘシ

第七十六條 其交代ノ順序ハ銃前步哨ヲ始トシ次

ニ最遠ノ守地ニ行キ夫ヨリ逐次ニ哨舍ノ方ニ及
フヲ例トス其交代スヘキ步哨ヲ距ル凡ソ六步ノ
地ニ至レハ步哨掛之ヲ停止シテ肩銃ヲナサシム
下番步哨モ同シク肩銃ヲナス是ニ於テ兩步哨掛
ハ步哨ヲ下番步哨ノ前面ニ進マシメ下番步哨掛
ハ上番步哨掛ノ左方ニ立ツ上番步哨掛右左捧ケ
銃ノ令ヲ下ス此令ニ應シテ兩步哨相對シテ捧銃
ヲ爲ス下番步哨低聲ニテ其守地ノ守則ヲ上番步
哨ニ傳告ス若シ傳告中誤謬アルトキハ下番步哨
掛之ヲ改正シ或ハ之カ辨解教示ヲ加フ然ル後上
番步哨掛ハ兩步哨ニ肩銃ヲ爲サシメ上番步哨ヲ

シテ哨廠内外等ヲ査見セシメ若シ不正ノ所業アルトキハ之ヲ糾スヘシ

第七十七條 銃前歩哨ヲ除クノ外總テ下番歩哨ハ交代ノ後チ其隊ノ左翼ニ就キ歩哨掛ノ引卒ニ隨テ哨舍ニ皈ルヲ法トス

第七十八條 交代全ク終リ哨舍前ニ皈レハ下番歩哨掛ハ下番歩哨ノ銃ニ損所ナキヤ否ヲ檢シ淨拭セシメ後チ右回シテ哨舍ニ對向セシメ捧銃ヲナサシメテ解散セシム然ル後哨兵司令ニ其交代ノ終リシ旨ヲ申報スヘシ其他總テ守衛中歩哨ヲ交代セシムルトキハ同法ヲ以テス唯下番歩哨掛ノ在ラサルヲ異ナリトス

第七十九條 歩哨ハ晝夜ノ間ナク一時毎ニ交代セシムルヲ常トス然レモ時候ト形勢トニ因リ之ヲ要スルトキハ二時毎ニ交代セシムルモ妨ケナシ

歩哨ノ任務

第八十條 凡ソ歩哨ハ常ニ銃ニ劍ヲ付シ肩銃擔銃或ハ建銃ヲナシテ其守地ヲ看守シ雨雪天等ニシテ其哨廠内ニアルト雖モ銃ヲ離スヲ禁ス

第八十一條 歩哨ハ姿勢動作ヲ嚴正ニシ毫モ注意ヲ怠ラサルヲ緊要トス且談話ヲナシ呼哦喫烟等ハ嚴禁トス

第八十二條 歩哨ハ其哨兵ニ屬スル歩哨掛ノ指令

ナクシテ他人ト交代スヘカラス又司令官首部司令哨兵司令若クハ其下士ニアラサレハ守則ヲ語ルヘカラス且歩哨掛ノ外更ニ守則ヲ受クルコトヲ禁ス

第八十三條 歩哨ハ總テ敬禮ヲ行フヘシ若シ哨廠

内ニ在ルトキハ必ス之ヲ出テ敬禮ヲ行フヘシ

第八十四條 凡ソ歩哨ハ百事ニ配意注目シ瞬時モ

警戒ヲ怠ルヘカラス故ニ降雨雪及ヒ嚴寒ノトキ

タリトモ雨覆ヲ用ユルヲ許サス又其哨廠内ニ在

ルトキト雖モ哨兵司令巡察ノ將校下士及ヒ隊伍

等來ルトキ或ハ非常ノ號音聞ユルトキハ直ニ

哨廠ヨリ出テ他ノ景況ニ心ヲ移サス其守地ノ警

戒ヲ嚴ニスヘシ其他總テ夜間ハ聲音ヲ聞クモ亦然リトス

第八十五條 歩哨若シ某所火災タルヲ知ラハ火事

ト呼ハリ又非違暴客等ヲ視レハ氣ヲ着ケト呼ハ

ルヘシ此警報複哨ニ在テハ其一名之ヲ報知シ單

哨ニアテハ歩哨ヨリ歩哨ニ傳ヘ以テ哨舍ニ通ス

ルヲ要ス

第八十六條 銃前ノ歩哨ハ非常ノ號音ヲ聞クカ又

ハ武装セル兵隊及ヒ司令官首部司令巡察ノ將校

來ルヲ見レハ其司令ニ報知スヘシ

第八十七條 戒嚴ノ日ニ在テハ夜間ハ人ノ歩哨ニ

接近スルヲ許サス故ニ人來ラハ銃ヲ構ヘ止レト

呼ヒ其人止レハ誰カト問ヒ其答明瞭ナレハ通行
ヲ許ス若シ止レト呼ヒ再度ニ及テ停ラサレハ銃
鎗ヲ構ヘテ行進ヲ遮阻スヘシ但銃ニ装填セルト
キハ止マレト呼ヒ止ラサレハ先ツ火撃スヘキ旨
ヲ示スヘシ尙ホ聞カサレハ終ニ放火シテ哨舎ニ
警報スヘシ

第八十八條 凡ソ禁中殿閣親御ニ近キ諸邊ニ在テ
ハ哨兵巡察若クハ他ノ者ヲ見テ誰何スルヲ禁ス
故ニ記號ヲ用ヒテ識別スルヲ要ス目今宮中一般ニ暗號
ヲ疑シキ者アレハ姑ク靜ニ
誰何シテト之ヲ糾覈スヘシ

第八十九條 門部ヲ置カル、處ノ諸門ノ步哨ハ其
出入者ヲ門部ニ於テ門鑑ヲ檢スト雖非違暴客

等ノ常ナラサル所為ヲ以テ出入スル者ハ直ニ之
ヲ逮捕シ又其近傍ニ於テ常ナラサル景況アルト
キハ速カニ報告スルコトニ注意スヘシ

第九十條 府庫ノ步哨ニ在テモ一般ノ規則他ノ步
哨ト同一ナルモノハ前條揭示スルヲ以テ總テ之
ヲ守ルヘシ

第九十一條 凡ソ府庫ノ步哨ハ動哨ニシテ夜間ハ
常ニ其周圍ヲ巡行スヘキヲ以テ步哨勤務中ハ停
止シテ休憩ヲナスヲ許サス晝間ト雖モ又時々巡
行スヘシ

近衛子爵家展覧記

第九十二條 司令官ハ巡察出發ノ時間及ヒ巡察ス
ヘキ哨所ヲ定ム

第九十三條 巡察ヲ分テ二種トス即左ノ如シ

其一 司令官巡察

其二 將校及下士巡察

但曹長給養掛軍曹モ之ヲ為スヘシ

第九十四條 司令官ハ哨所ヲ監視シ其人員及武器

等ヲ検査シ哨兵司令ヨリ其景况情態ヲ聞キ且歩

哨配布ノ位置ヲ正シ其守則等ヲ試問スヘシ

第九十五條 將校下士ノ巡察ハ歩哨其守地ニ在テ

其守則ヲ守ルヤ否ヲ監視スル為メ其勤惰ヲ哨兵

司令ニ通告シ且哨舎ノ帖簿ニ自己ノ姓名及時限

等ヲ記載シ之ニ捺印スヘシ亦巡察中非常ノ事件
ヲ見聞スレハ其近傍ノ哨所ニ告知シ速カニ司令
官或ハ首部司令ニ申報スヘシ

近衛鎮臺演習日割表

隊		號		月		三	
步兵第何聯隊	第一大隊						
	第二大隊						
	第三大隊						
步兵第何聯隊	第一大隊						
	第二大隊						
	第三大隊						
步兵第何聯隊	第一大隊						
	第二大隊						
	第三大隊						
騎兵第何大隊	野砲兵第						
	何大隊						
	山砲兵第						
工兵第何大隊	何大隊						
	何大隊						
	何大隊						
輜重兵第何小隊	何小隊						
	何小隊						
	何小隊						

考

備

符合

大隊ニ於ケル演習

聯隊ニ於ケル演習

分遣隊ニ於ケル演習

旅團ニ於ケル演習

休業

朱字八日曜日

小演習日記

第一項	第二項
-----	-----

大演習ヲ施行セサル 鎮臺ニ在テハ毎年春季ニ於テ臺下ノ常備豫備ノ諸兵ヲ召集シ小演習ヲ施行スヘシ
諸兵召集日數左ノ如クナルヘシ

第三項

右日數ノ如ク召集シ之ニ實地演習ヲ施行シ以テ操典ノ規則ニ訓練セシムヘシ
演習ノ日割ヲ定ムル事左ノ如シ

第二 四日間聯隊ニ於ケル諸演習ヲ爲サシメ且ツ騎兵ヲ有スル鎮臺ニ在テハ之ニ騎兵ヲ附シ以テ連衡運
動ヲ施行セシム

ハ步兵ノミヲ以テシ或ハ歩騎連衡シ以テ演習スルアルヘシ
 最終ノ三日ヲ以テ混成旅團諸演習ト爲ス此ノ日限中ハ歩騎砲工輜ノ五兵相連衡スルモノナリ

中隊ニ於ケル演習ニシテ中隊特立ナルモノニ非ス。特立中隊ニ於ケル演習ハ之ヲ預科教習トシテ小演習前適宜ノ地ニ於テ之ヲ爲スモノナリ。又第四期日限中ノ演習ヲ分テ三ト爲ス。一ツヲ特立旅團諸演習ト爲シ。一ツヲ

露營中ト雖_レ前哨ヲ除_クノ外ハ概シテ舍營スヘキナリ然_レモ各隊少クモ一回ノ露營ヲ爲スヘキノ故ニ若シ
 旅團ニ於ケル演習中時日不足ナル時ハ分遣隊演習若クハ聯隊ニ於ケル演習中亦露營ヲ爲サシムヘシ

第八項

旅團演習ハ必ス想像敵若クハ假設敵ヲ以テスヘシ
斷戔勤務ノ爲メニハ最下限ノ人員ヲ殘シ置クヘシ

金一

演習地ヲ定ムルハ勉メテ本臺ト隔離セサルカ如クシ且ツ之ヲ選フハ毎年一處ニ於テセス必ス變換スヘシ又

1

石上 身自一具作多海濱之狀

汲 澗 鯁 臺 戴 晉 日 曙 表

[illegible]